

協同の和

広島医療生協 庄原・東城支部
 三次市三次町 310-4 (県北事務所内)
 TEL:(0824)65-6056 FAX:(0824)64-8445

これからどうなる？介護保険

9月28日、県北地区のスタート集会で「これからどうなる？介護保険」というテーマで勉強会がありました。

講師は広島医療生協介護事業部長の岡田美杉さん。



介護保険は3年に1度見直しがあり、2021年4月はコロナ禍ということもあり大きな負担増は見送られた面もありますが、2024年4月の改定の際には利用負担が多くの人から1割から2割となり、デイサービスの利用も特養の入所も、訪問看護の利用も負担金額が2倍になります。又、ケアマネージャーが作成するケアプランも有料となり、介護サービスが受けにくい制度に変わる恐れがあります。

社会保障に使われると銘打って行われた消費税増税も、蓋をあけてみれば大企業の法人税や所得税の穴埋めに使われ、多くの高齢者の負担増は目に見えています。

3年後の大型改定だけではなく、すでに今年の8月には、特養などの入所施設やショートステイなどを利用する方の食費、居住費の減免の見直しが行なわれ、約27万人の人が負担増となっている様子です。

誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、政策の動向にも目をむけ、力を合わせていきましょう。(F.S)

※学習会の内容は動画に残しております。30分程度の内容となっていますので、ご興味のある方は県北事務所までご連絡ください。

彼岸花が咲きました

9月中旬の彼岸の頃、県北事務所の傍を流れる西城川の岸边に、今年も彼岸花が咲きそろいました。

ここ三次町寺戸地区では、10年前より地元の農家の人の「イノシシ被害をなんとかして・・・」という言葉から、高齢者の皆さんが河川敷の整備が始めました。

藪を切り開き、丈高の草を刈り、球根の根付を行い、毎年の苦労が実ったものです。他町の方の応援もありました。

今では最盛期には三次市内はもとより、広島、福山、岡山方面からもお客様があり、交流もあります。

地元ケーブルテレビのピオネット、中国新聞、NHKの報道もあり、江の川漁協より川辺の美化の表彰も受けました。

凜とした近寄りがない立ち姿。つい見入ってしまいます。

三次市広報の10月号の表紙にも飾られました。来年も又、美しい花をつけてくれるでしょう。

(F.S)



アラ古希夫婦の里山便り

アラ古希の妻は、三次市から庄原市に嫁いで40年余りになります。

庄原と三次ではさほど違いは無いように思われますが、嫁いで初めて知った言葉がいくつかあります。



その一つを今回お話ししたいと思います。

それは、「あまだ」というものです。(漢字でどう表すのかご存知の方がいらっしゃったら教えてください。)

今風にいうとロフトの事で、中二階の部屋を「あまだ」というのです。母屋にあるものは窓もなく、昔は蚕を飼っていたようですが、私が来たときには物置になっていました。

牛小屋の上にあるものは、干し草やわらを貯蔵する所として使っていました。階段も作り付けではなく、取り外しのできるはしご段になっています。

今では終活の一環でどちらも空っぽにして上がることはありませんが、歳月の流れを感じさせるものです。(S.Y)

えのかわ訪問記

今年の始め、祖母が亡くなりました。

入浴中の心筋梗塞だったようです。

急な事だったので、長女である母は葬儀の事など大変な思いをしたようです。親戚はどこまで連絡しないといけないのか？あるいは連絡してほしくないところもあるのか？お寺はどちらのお寺に来てもらうのか？

色々な事が落ち着いたころ、母が「ちゃんとわかるように書いとかなないといけない事がよく分かった」と。

これまで何度も言ってきたのに... と思いつつ、これは良い機会と思い、ノートを買って母に渡しました。

最初は「何を書けばいいかわからない」と、そっけない風でしたが、まずは名前とか生年月日とか書いたら？と伝えました。

お盆に帰省した時には、「お願いしときたいこと書いといたよ〜。ほんと、書いとかなないと自分も忘れるし、あなたたちだけじゃあ分からないよね。」と言うまでになり、最近では「あんたも書いといたほうがいいよ」と言われました。

こうして我が家の『人生会議(ACP)』は少しずつ動き始めました。(畠谷)

在宅介護、療養のご相談は、えのかわへ

訪問看護ステーション えのかわ

TEL 0824-64-8444

居宅介護支援事業所 えのかわ

TEL 0824-53-1888

